
闇と光を継ぐ者たち

聯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇と光を継ぐ者たち

【コード】

N0480H

【作者名】

聯

【あらすじ】

三百年に一度訪れる災厄、魔王。唯一、魔王に対抗できる光の力を持つ種族であるエルフ族と魔王による決戦は絶えることなく三百年に一度の周期で行われてきた。しかし、前回の決選から三百年かけて絶えることのなかった魔王の来襲が起らない。厳戒態勢が続くエルフの村に一人の人間の少年が現れる……そして三年の月日がたった。

プロローグ

「もう……いつちやうんだね」

世界に存在する三つの大陸、そのうちの一つであるエトワール大陸。その中でも東の辺境にあたり、エルフたちの住まう森といわれるシルフィーヌの森の一角に寄り添うように佇む二つの人影があった。

そのうちの片方、腰まで届く輝くような金の髪を持つ少女はその翡翠のような瞳を潤ませ悲しげにうつむかせた。

「……長老がなくなつた今、人間である俺がこの里にとどまればおじさん達にも迷惑をかけるからね」

その少女に向かい合うように立つ少年は、漆黒の髪を風になびかせながらさみしげにほほ笑んだ。

少女は自分の耳、少年のそれよりとがったエルフ族特有の耳を隠すように両手で押さえる。

「ごめんなさい」

少女はこらえきれずあふれてきた涙を隠すようにさらにうつむく。少年はうつむいてしまった少女の頭をやさしく撫で始めた。

「シエラが謝ることじゃないよ、それに旅をすれば生まれ故郷に戻る方法も見つかるかもしれないしね」

「そつ……ね……」

シエラはうつむいていた顔をゆっくりとあげると、涙で濡れた瞳で少年を見つめゆっくりとほほ笑んだ。

「いってらっしゃい、ハヤト。絶対に……絶対にまた会おうね」

ハヤトはそんなシエラの様子に顔を赤らめながらも、目線をそらさずにシエラに向かいほほ笑んだ。

「もちろん、絶対にまた会おう」

ハヤトは身を翻し、森の出口へと歩き始める。太陽の光に照らされたハヤトの後ろ姿を、シエラはその姿が見えなくなるまでずっとその目に焼き付けていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0480h/>

闇と光を継ぐ者たち

2010年11月2日14時22分発行